ウメモト インフォメーション

２０22年　9　月　16　日　　担当　Jeong

原油が大幅反落、米金融引き締めが重荷

16日朝方の国内商品先物市場で、原油は大幅に反落して取引を始めた。取引量が多い2023年2月物は1キロリットル7万1280円と前日の清算値に比べ3000円安い水準で寄り付いた。米連邦準備理事会（FRB）による金融引き締めが米景気の後退を招くとの見方が根強く、原油の需要減少リスクが意識され、原油先物にも売りが優勢となった。

市場では「9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）までは需要の側面により焦点が当たる」（国内証券の商品アナリスト）との声があった。ロシア産エネルギーの供給リスクが依然としてくすぶるものの、足元ではFRBの利上げ加速観測を受け原油需要が細るとの警戒感が強く、売りが出ている。

米ホワイトハウスは15日、鉄道のストライキを回避する暫定的な合意に達したと発表した。エネルギーや穀物など幅広い物資の供給に支障が出る事態がひとまず回避されたことも相場の重荷となった。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２2年　9　月　16　日　　担当　Jeong

貿易赤字が過去最大2兆8173億円　8月、資源高・円安で

財務省が15日発表した8月の貿易統計速報によると、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は2兆8173億円の赤字だった。エネルギー価格の高騰や円安で輸入額が前年同月比49.9%増の10兆8792億円に膨らみ、輸出額の伸びを上回った。赤字額は東日本大震災の影響が大きかった2014年1月を上回り、比較可能な1979年以降で単月の過去最大となった。

14年1月は2兆7951億円の赤字だった。震災後の原子力発電所停止により火力発電所用の燃料輸入が増えていたほか、同年4月の消費増税を控えた駆け込み需要も輸入額を押し上げていた。22年8月は8年7カ月ぶりに当時を上回った。
貿易赤字は13カ月連続。15年2月までの32カ月に次ぐ過去2番目の長さとなっている。
22年8月の貿易赤字額はQUICKがまとめた民間エコノミスト予測の中心値（2兆3981億円）を上回った。

輸入額が前年同月を上回るのは19カ月連続だ。アラブ首長国連邦（UAE）からを中心に原油を含む原粗油が90.3%増えた。オーストラリアからを中心とする液化天然ガス（LNG）は2.4倍となり、石炭は3.4倍に増えた。

原粗油の輸入は金額ベースで17カ月連続で増加し、数量ベースでも10カ月連続で増えた。通関での円建て輸入単価は1キロリットルあたり9万5608円で、前年同月から87.5%上昇した。ロシアのウクライナ侵攻で原油価格が上昇したほか、急速な円安が輸入額を押し上げた。
輸出額は22.1%増の8兆619億円だった。18カ月連続で前年同月を上回った。数量ベースでは1.2%減と6カ月連続の減少で、円安局面でも低迷する。部品などの供給制約が緩和されてきた自動車の輸出額は39.3%増え、中国向けなどの半導体等製造装置も22.4%増となった。

地域別では、対米国の黒字が20.7%増の4715億円と、2カ月ぶりの増加となった。自動車や自動車部品などが伸び、8月の輸出額としては過去最高となった。輸入額は単月で過去最大で、医薬品や原粗油が伸びた。

対アジアの輸入、輸出額はともに8月としては最高だった。このうち対中国もともに最高となった。中国からの輸入は衣類や通信機が増え、中国への輸出はハイブリッド車などが伸びた。対中国の貿易収支は5769億円の赤字だった。赤字は17カ月連続で、赤字額は2.7倍に増えた。
対ロシアの貿易収支は1091億円の赤字だった。日本政府の輸出禁止措置などにより輸出額は21.5%減の549億円だったが、輸入額は67.4%増の1641億円となった。原粗油の輸入額が103億円だった。主要7カ国（G7）は輸入禁止で合意しているが、通関手続きの関係で過去に到着したものが計上されたとみられる。

貿易統計上の8月の為替レートは1ドル=135円08銭で、前年同月に比べ22.9%の円安だった。足元の為替レートは143円前後まで円安が進んでいる。ロシアのウクライナ侵攻で拍車がかかった原油や小麦などの資源・食料価格の高騰は一服しているが、前年に比べれば高水準だ。貿易赤字の拡大傾向は続く可能性がある。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０22年　9　月　16　日　　担当　Jeong

石炭火力のCO2、建材や燃料に　広島に産学官の研究拠点

排出すれば温暖化ガスとなる二酸化炭素（CO2）の有効活用を探る産学官の研究拠点が広島県内に完成した。コンクリートや航空機用燃料など10分野の研究テーマごとに企業や大学が参画する。CO2のリサイクルは2050年の脱炭素目標の達成に欠かせないため、技術の確立を急ぐ。

経済産業省所管の国立研究開発法人、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が瀬戸内海の大崎上島町に整備した。CO2は隣接する中国電力とJパワーの石炭火力発電所から回収し、パイプラインで供給する

地元の日本微細藻類技術協会は、藻類の光合成によって航空機の燃料をつくる技術開発を進める。CO2を原料にする分だけ飛行時の排出を相殺できる。

持続可能な航空燃料は英語表記の略称で「SAF」と呼ぶ。現状は化石燃料由来のジェット燃料より10倍以上も高いとされる。協会の青木慎一主任研究員は「いかにコストを下げるかが課題だ」と話す。

東京大学発スタートアップのアルガルバイオ（千葉県柏市）は同様に藻類から健康食品向けの成分を取りだし、残った部分を原料にペットボトルなどを作る構想だ。中国電力と鹿島、三菱商事はCO2を封入したコンクリートの研究開発を進める。

脱炭素をめざす場合、鉄鋼や化学、電力といったCO2の排出量をゼロにするのが難しい分野の取り組みがカギを握る。排出が避けられない分を再利用するカーボンリサイクルは技術革新の期待が大きい。世界でも競争が激しくなっている。経産省はSAFについては30年ごろ、コンクリート製品は40年ごろからの普及をめざす。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０22年　9　月　16　日　　担当　Jeong

円、上昇し143円台半ば　政府の円安けん制は支え

16日午前の東京外国為替市場で、円相場は上昇した。12時時点は1ドル=143円43～44銭と前日17時時点と比べて13銭の円高・ドル安だった。15日発表の米経済指標は強弱が入り交じる内容だったが、日本政府が円安けん制を示しているのは円相場の支えとなり、円買い・ドル売りが優勢だった。

日本時間16日午前の取引で、米長期金利が低下し日米金利差が縮小した場面で円買い・ドル売りが入り、一時142円83銭近辺まで買われた。日本政府が急ピッチな円安に警戒感を示しているのも、円相場を下支えしていた。

10時すぎには鈴木俊一財務相が閣議後の記者会見で、為替相場を巡って「急速な変動は望ましくない」などと語った。これまでの発言と大きく変わっていないとの受け止めから、円相場への影響は限られた。

9～12時の円の安値は143円49銭近辺で、値幅は66銭程度だった。

円は対ユーロで下落した。12時時点は1ユーロ=143円34～38銭と、同11銭の円安・ユーロ高だった。

ユーロは対ドルで上昇。12時時点は1ユーロ=0.9994～95ドルと同0.0017ドルのユーロ高・ドル安だった。

オーストラリア（豪）ドルは対米ドルで一時1豪ドル=0.6688米ドル近辺と前日17時時点と比べて0.0071ドルの豪ドル安・米ドル高水準と、7月中旬以来、およそ2カ月ぶりの安値をつけた。米連邦準備理事会（FRB）が大幅な利上げペースを維持するとの見方が豪ドル売り・米ドル買いにつながった。15日の米株式相場が下落し、リスク資産の価格に連動しやすい「ハイベータ通貨」とされる豪ドルには売りも出やすい。

引用記事　　**日経新聞**

2022年　9　月　16　日　　担当　Jeong

8月の中国石油精製量、約2年ぶり低水準

中国国家統計局が１６日発表した８月の石油精製量は前年比６．５％減の５３６６万トン（日量１２６４万バレル）で、約２年ぶり低水準だった。一部の国有精製所が操業停止したほか、独立系精製業者もマージン低下と需要低迷で生産を縮小した。

７月の精製量（日量）は１２５３万バレルだった。

１―８月の精製量は４億３４８９万トン（日量１３０６万バレル）で、前年比６．３％減。

中国の燃料需要は今年に入り新型コロナウイルス対策の移動規制の影響を受けている。アナリストは今年の燃料需要が２０年ぶりに縮小すると予想している。

８月の原油生産量は前年比０．２％減の１６９４万トン（日量３９９万バレル）だった。１―８月の生産量は３．２％増の１億３６９４万トン（日量４１１万バレル）だった。